

東日本大震災から9年を迎えて

“いのちを守り、人を活かし、未来をつくる町づくり”へ



東日本大震災及び原子力災害から9年を迎えました。この大震災により今日に至るまで尊い命をなくされた方々に対して、深く哀悼の意を表しますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

私は全身全霊をささげ、ふる里の復興・再生、町民の皆さまの「幸せな帰町」に向けて全力で取り組んで参りました。

これまで、津波被害を受けた広野駅東側の防潮堤整備、嵩上げした県道広野・小高線、防災緑地の整備、災害公営住宅整備、公設商業施設整備、医療福祉施設の充実、広野駅東口広場の完成、居住環境の整備などの環境整備を国・県と連携し進めてきました。本年は、駅構内のバリアフリー化工事、未来の架け橋へのエレベーター設置設計

再生への一歩になるよう期待しています。

これからの双葉地方の将来を見据え、震災から広野町が果たしてきた役割を踏まえ、町民の生活再建のため、医療や介護の一部負担金並びに保険料・保険料の免除措置や高速道路無料化措置を引き続き継続するよう強く求めていくとともに、プレミアム付商品券の発行等により、町民の皆様の経済的負担を軽減させ生活再建を下支えして参ります。

「福祉のまちづくり」宣言を踏まえ、「第二次広野町健康づくり計画」を策定するとともに、「地域連携手帳」を作成し、広野町地域包括ケアシステム構築の確立、在宅医療と介護連携の施策、医療、介護及び保健機関がより円滑な情報共有を図ることが可能となるよう取り組んで参ります。若者等が安心して子育てしやすい環境を整備するために広野駅東側第2期開発を推進し、教育の丘におけるきめ細やかな保育・教育を実践し、町の未来を託す子どもたちの健やかな育成に全力で取り組んでいきます。

ふるさと広野町の歴史、伝統、文化に対する誇りを胸に、本年を「ふる里

業務、広野駅東側開発第2期で計画している56区画住宅地整備等による若者世代の移住・定住人口の拡大に取り組み、広野町で生活する皆様の命を守り、安心して暮らすことができるまちづくりを進展・展望して参ります。未来を託す子どもたちの健やかな成長を育む幼保連携型認定こども園「ひろばーく」の開園、ふたば未来学園中学校・高等学校の新校舎が完成し、中央台及び築地地区において文教施設が集中し、教育の丘が形成され、町内いたるところで元気な子どもの姿を目にすることが多くなり復興を実感できるようになりました。

JR常磐線の仙台までの運行が3月14日に再開しました。この夏には東京オリンピック・パラリンピックの開催3月には聖火リレーが復興のシンボル県立ふたば未来学園をスタートし広野駅東側ロータリーをゴールとして実施される予定でしたが、国内はもとより国際社会において新型コロナウイルス感染症拡大防止により一年程度延期となりました。再開される折には聖火については完全な形でリレーを実施し、世界が新型コロナウイルスの危機を乗り越え、復興五輪の理念のもとで日本

復興・創生「飛翔の年」と位置付け、これまで取り組んできた町の復興・再生を、新しい広野町の「創生」へと進化させ、新しいまちづくりを進め、生活再建を念頭に安心・安全なまちづくりに向けて着実に前進して参ります。本年は町制施行80周年を迎え、継往開来、先人たちの歩みに敬意を払い、100周年に向けて更なる発展を目指していきます。

国の復興・創生期間の10年目を歩むところ、復興庁の設置期間が10年間延長されることとなり、復興創生期間後の復興を支える方針が示されました。原子力災害被災地域の復興・創生は中長期的な取組みが必要であります。必要な支援については引き続き国に対し強く要望していくとともに、町は復興・再生、そして地方創生につなげ、成すべきことはしっかりと捉え、確実に成し遂げるべく、力強く歩んで参ります。皆様、町政への一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

広野町長

遠藤智